

特定非営利活動法人ワーカーズ・コレクティブパレット

2022 年度 事業報告書

2022 年度事業報告書

1) 事業の成果

《パレット》

1. **パレットの理念に基づいた事業の充実と安定した運営を図ります。**
 - ・ パレットの理念に基づいた事業の継続、充実、また新たに必要とされる事業の展開のために人材確保に力を入れ、今年度は新たに 8 名のメンバーの加入がありました。定例会とは別にワーカークミーティングの機会を設け、パレットについて考える機会を増やしました。
 - ・ 生活クラブ加入者に向けてスタッフ募集チラシも配布しました。今後も理念に理解のある人材を確保し、安定運営に努めていきます。
 - ・ 家族のコロナ感染により休まざるを得なかったスタッフに分配金を支給できるよう助成金を申請しました。コロナ禍、子育てや介護等様々な事情がある中でも安心して働けるよう、各事業所の安定的な運営体制を整えるため議論を重ねました。
 - ・ 今年度も引き続き、青葉区子ども家庭支援課での見守り保育事業を受託しました。区から依頼のある日には、安定的にスタッフを配置し、保護者に安心して窓口の利用をしてもらうことができています。
 - ・ 見守り保育は事業所を持たない特殊性もありますが、他事業所同様にロゴを作成し、パレットが受託する一事業として明確化し、HP にも載せました。
 - ・ 各事業所に設置している「もみじの家」の募金箱へのご寄付に、パレットからの寄付も含め、毎年お送りしています。パレットの理念に通じる取組みとして、利用者に今後も「もみじの家」の周知を行っていきます。
2. **変化していく社会情勢に対応しながら、多様な親子に寄り添って適切な支援ができるよう、各事業所や関係機関と連携を密にして取り組んでいきます。**
 - ・ フードパントリーでは、各事業所の利用者から離乳食の寄付が多く集まることもパレットならではの特徴で、赤ちゃんのいる家庭に喜ばれています。また、パントリーは日頃関わりの少ない中高生のひとり親家庭の親から悩みを聞くこともあり、その必要性・重要性を感じています。今年度はメンバーの子やいるかくらぶの児童が食品の仕分け作業に参加してくれました。
 - ・ ラフール発達相談員の野本先生による「コロナ禍における親・子のからだ・こころ」と題したパレット全体研修を開催しました。コロナ禍での子育てへの影響、より孤立する子育てについて、また青葉区の地域特性も学びました。
 - ・ 変化する社会情勢の中で適切な支援ができるように、パレット総会や研修、会議、企画、予約受付、混雑状況の発信等、様々な機会でもオンラインを積極的に活用し、各事業所が連携して DX 化に取り組みました。
 - ・ 乳幼児一時預かりの WEB システムが 2022 年 6 月から始まりました。預かり状況なども見ることができ、預かりがしやすくなってきています。この新しいシステムの利用方法など、各事業所に出かけて行き広報活動をしました。
3. **広い世代にパレットの活動を伝え、子育て支援の輪を地域に広げ、安心して子どもを産み育てることのできるまちづくりに努めます。**

- ・ 國學院大學の授業で、青葉区の子育て支援とパレットについて話をする機会をいただき、学生ボランティアにつながりました。若い方に興味・関心を持ってもらえるよう引き続き広報活動に努めます。
- ・ 子育てタクシー周知のため、区内の小児科、産婦人科、学童保育室にチラシを送付しました。妊娠期の方や子育てサポートシステムでも広報しており、妊娠期の利用や小学生の送迎希望者に繋がっています。
- ・ 区民まつりではパレットの HP を印字したウェットティッシュを来場者に配布しながら、ラフル並びにパレットの活動を広報しました。小学生の親より、自身の子どもの小さい時に知っていたら利用したかった等、利用者以外の実際の声聞くことができました。中高年の人にもボランティア募集や子育て応援マークについて声かけする機会となりました。
- ・ ぴよぴよ 20 周年、ラフルサテライト 5 周年の行事には、事業所の枠を超えて利用者や関係機関へ感謝を伝えることができました。
- ・ HP のリニューアルが進行中です。なないろや青葉区こども家庭支援課見守り保育事業独自のページも作成し、利用を考えている人にとって分かりやすい情報発信をしています。求人情報の発信や活動の紹介のほか、支援申込・お問い合わせをオンラインでできる環境を整える等、広い世代にパレットの活動を伝え、支援の輪を広げることを目指します。

2) 事業内容

特定非営利活動にかかる事業

① 保育室での保育に関する事業

《まーぶる》

1. 子どもひとりひとりの成長を大切に、豊かな日常をつくります。
 - ・ 自らおもちゃで遊びたい、好きなことをやってみたいと思える環境をつくるため、家具の配置換え等、保育室の環境整備を行いました。
 - ・ 季節の行事を取り入れ、子どもが感性豊かに過ごせるよう工夫しました。
 - ・ 異年齢保育の中で、子どもたちがお互いの存在に刺激を受けて、それぞれに成長していく姿が見られました。
 - ・ 月齢や年齢にとらわれず、その時その時その子どもに合った関わりを意識しました。
 - ・ 意欲的な行動を見守り、出来たことを認めて、子どもが満足感や達成感を日々感じることができるように努めました。
 - ・ 保育者が子どもの気持ちを代弁し、行動を仲立ちすることで、友だちと関わることの楽しさを感じることができるよう、丁寧に対応しました。
 - ・ 未だ続くコロナ禍の中でも少しずつ日常を取り戻すべく、保護者の参加をお断りしていた各種行事等も親子で参加できるようにし、お子さんの成長やまーぶるでの様子を見ていただける機会を設けました。
 - ・ 環境の変化で、できたことができなくなることを自然なこととして受け止め、一人ひとりの気持ちに寄り添い、柔軟に対応しました。
 - ・ 子どもの表す複雑な思いを丁寧に受け止め、共感することで、子ども自身が自分の気持ちを認め、安心して自分の思いを出せるようにしました。

2. **安心安全に配慮し、温かいふれあいや経験を大切にしていきます。**
 - ・ 子どもの年齢にあったおもちゃの大きさ・形・量を考え整理しました。
 - ・ 片付けやすい、すぐ取り出せる配置に変え、子どもたちにも片付けやすい環境にしました。
 - ・ 園外保育時、近隣の方々と挨拶を交わし、温かいふれあいができました。
 - ・ 戸外活動を行う際も常に安全を確認し、子どもたちがのびのび過ごせるよう努めました。
 - ・ 保育中のケガやヒヤリハット等をミーティングで共有し、常に安全を心がけました。
 - ・ 初めてのお預かりなどで、保護者と離れて不安を感じている子どもには、より丁寧に寄り添い、安心して過ごせるよう心がけました。
 - ・ 思いがけない行動による転倒や衝突などが起きるため、細心の注意を払い、危険につながらないように努め、家具の配置も工夫しました。
 - ・ 戸外に出る際は、玄関を出るところから常に子どもと共に安全の確認を行うことで、習慣づけることができるよう努めました。公園への道では、交差点の確認・信号の渡り方・歩道の歩き方など、大人だけではなく、子どもにも声をかけながら共に行いました。
 - ・ 戸外では、発見したり感じたりすることに共感的に関わり、さらに興味が広がるよう努めました。
 - ・ なじみのない場所で保護者から離れて過ごす不安に対し、どこにいても全体が見通せる空間作りを心掛け、常に保育者の存在を感じ、安心してのびのび過ごせるように工夫しました。

3. **一時預かりを通じて、地域の子育て家庭の声を聞き、事業に反映させる努力をします。**
 - ・ 育児教室や親子の広場に出かけ、まーぶるの活動を伝え、親子との交流ができました。
 - ・ Webでの登録や予約ができるようになり、多くの方の見学・登録に繋がりました。
 - ・ つどいの広場から「説明会を開催して欲しい」の声に応え、登録説明会を開催しました。
 - ・ 地区別連絡会に参加し、近隣の保育園、子育て広場の皆さんと交流でき、まーぶるの説明も行いました。
 - ・ 送迎の際など保護者が話しやすいよう対応に気を付け、常に寄り添い、一緒に考える姿勢を大切にしました。
 - ・ 定期預かりの方とは個人面談を行い、お子さんの家庭での様子や子育ての困り事などを共に考えることができました。
 - ・ 登録時の相談や質問に丁寧に答え、安心して利用してもらえるようにするとともに、育児についての新しい情報も得られるような会話を心掛けました。

4. **保育者同士が活発に意見交換を行い、よりよい保育環境の向上に努めます。**
 - ・ 保育日誌にお子さんの様子を記入し、毎月のミーティングで情報を共有しました。
 - ・ ミーティングや振り返りノートなどで日々の保育について意見交換しました。
 - ・ 研修で学んだことをミーティングで報告したり、課題を決めてグループディスカッションを行うことで保育のスキルアップを図りました。
 - ・ コロナ禍でも、オンラインを活用してミーティングを毎月行いました。
 - ・ 月毎の保育計画「保育者間チームワーク」に、その時必要な内容を記載、掲示して共有し、より良い保育が出来るようにしました。

- ・ 子どものやってみたい気持ちに対して、安全を保ちながらどこまで提供できるのか、ミーティングなどで考え実現できる工夫をしました。

《家庭的保育室なないろ》

1. 子ども一人ひとりの姿を受け止め、愛着関係を築き、受容的で応答的な関わりを持つことを大切に保育していきます。
 - ・ 子ども一人ひとりの声や表情を受け止め、それぞれに適した応答的な関わりや、子どもの発達に応じた丁寧な保育を心掛けました。
 - ・ 保育者の表情を見せてこそしっかりと伝わるのではないかと感じることもありましたが、コロナ禍でのマスクをしての保育中、声の出し方や目の表情を意識し、子どもへの言葉がけの工夫に努めました。
2. 保護者との日々のやり取りを丁寧に重ね信頼関係を築き、家庭と保育室が共に子どもの成長を支え合う場であるという思いが伝わるように努めます。
 - ・ 保護者とのやり取りを重ね、保護者の思いに寄り添いながらも、子どもの発達に応じた関わり方を共有するため、分かりやすい言葉で伝えるように意識しました。
 - ・ それぞれの子どもと家庭のことを考え、日々の声掛けを工夫し、寄り添いながら最善の対応になるように努めましたが、伝えることの難しさを感じることもありました。
 - ・ 感染症対策に努め、親子ふれあい会を開催することができました。保育室内の様子や日々の活動を知っていただき、共に成長を喜び合うことができました。
3. 併設の一時預かり保育室と共に活動する機会を通して、子どもたちが豊かで多様な環境と関わりながら育つことを大切にします。
 - ・ 共に活動することで、戸外活動での遊びや子ども同士の関わりに広がりが見られました。また、保育者の配置を工夫し、子どもの月齢や体調に合わせた配慮をしながら保育を安全に行うことができました。
4. 日々の振り返りやミーティングを通して、スタッフ間の連携を深め、保育の質の向上に努めます。また、計画に基づいた研修を行い、必要な知識及び技術の習得を図ります。
 - ・ 日々変わる子どもの育ちを共有し、最善の関わりを話し合いながら保育を行うことに努めました。また、質の向上につながる内部研修を実施し、オンラインや、動画配信による研修の積極的な受講に努めました。
5. コロナ禍における連携園・関係機関・子育て支援に関する地域の人材との交流の仕方を考え、安心・安全に考慮した関わりがもてるように努めます。
 - ・ 連携園との交流や地域のお話会参加等、外部との交流はできませんでしたが、戸外活動時に近隣の保育園の方と挨拶を交わす等、日々の活動の中で自然な交流を持つことができました。
 - ・ 203号室での「mini ひろば&何でも相談」を毎週木曜日の開催にすることにより、コロナ禍、親子で行く場がない方への拠りどころとなることができました。
6. 食を生活の一部として捉え、保育生活の中で食べ物を身近に感じ、五感を使って食への興味・関心を育てていくことに努めます。

- ・ 食育活動とは別に、調理前の野菜を見る、触れる機会を多く取り入れることにより、野菜への興味、関心を育てることができました。また、子ども自身が調理の一部を担い、安心、安全に作って食べる食育活動を楽しむことに努めました。
- ・ 新しく乾物を戻してみる活動を取り入れ、戻っていく様子を見たり触れたりすることで身近な食材に興味をもち、給食時に言葉を交わしながら、おいしく食べることができました。

《一時預かり保育室なないろ》

1. パレットの理念のもと、0～2歳児、定員7名の少人数の良さを生かし、子どもが安心・安全に健やかに過ごせる一時預かり保育室を目指します。
 - ・ 子ども一人ひとりが安全に楽しく過ごせるよう、受け入れ時に保護者から聞き取りをし、その日の子どもの様子や体調に応じて、細やかに対応しました。また、慣れない場所に来ている子どもの気持ちに寄り添い、一人ひとりに向き合いました。
 - ・ 子ども同士の触れ合いや遊びの中で、異年齢で過ごす良さを大切にし、安心して過ごせる保育室であるよう努めました。
 - ・ 個人記録をつけることで日々の成長記録となり、久しぶりの利用時には参考にでき、スタッフ皆が子どもについての共通認識を持つことができました。また、保護者から聞き取りした事柄と合わせて、保育や子どもの安定した生活のために生かすことができました。
 - ・ アレルギーのある子どもについては、事前に保護者からの聞き取りを行い、預かり時には色の違う名前テープを使用し、掲示したホワイトボードにアレルギーの内容を書き留め、スタッフ間で口頭でも確認し合いました。食事時にはテーブルを離す、食直後の清掃等、細かく配慮しました。
2. コロナ禍でも感染対策を丁寧に行い、保護者の気持ちや悩みに寄り添い、育児をサポートします。また、関係機関と連携し、一時預かりを必要とする家庭が利用できるように努めます。
 - ・ 新型コロナ感染防止対策として、換気、子ども同士が密にならない席の配置に気を配り、おもちゃや室内の消毒を丁寧に行いました。
 - ・ コロナ禍の中、普段に増して保護者の悩みは様々となり、送迎時の保護者の表情や様子には気を配りました。子育てに苦労されている様子が見える時は丁寧に聞き取り、必要なアドバイスを行い、安心してもらえるよう努めました。場合によっては、短時間でも緊急の預かりを受け入れるよう努めました。
 - ・ 電話での予約には、利用理由も丁寧に聞き取り、保護者の悩みや気持ちに寄り添いました。
 - ・ 行政やラフル等の依頼による様々な家庭の子どもを預かりました。
 - ・ 保護者同士のつながりを応援し、新年度からの園生活の不安が小さくなった、との声をいただきました。
3. 併設型保育室の良さを生かして子ども同士が交流できるように、スタッフ相互で連携します。また、それぞれの視点から、振り返りやミーティングを充実させることで、スキルアップを図ります。

- ・ その日の預かりの子どもの月齢や、個性、発達の様子について、小規模保育室と共に、その日の活動内容について事前の打ち合わせを丁寧に行いました。共に協力することで、一時預かりだけでは行えない活動も可能となりました。
- ・ 日々、その日の保育についての振り返りを行い、戸外・室内と活動が分かれても、全員の情報を共有し、さらに保育を良くするための改善点について、意見交換ができました。
- ・ オンラインでのミーティングにて内部研修を行い、保育の意識を高めることができました。また、日々の振り返りで出た意見をミーティングで共有し、皆で話し合うことができました。
- ・ 共に公園へ出かけて、小規模保育室の子どもたちと過ごす機会を持ち、子ども同士の関わりや、集団生活の中で成長する姿を見ることができ、併設型の利点を生かす保育ができました。

4. 乳幼児一時預かり事業の意義と役割、必要性を知らせていきます。

- ・ 様々な機会を捉えて、行政や各機関にも子育て支援としての預かりの意義を伝えてきました。
- ・ 登録時には、働いていてもいなくても、障がいがあってもなくても、理由の如何に関わらず、安心して預けられる保育室があることを利用者にも伝えていきます。
- ・ 保護者に寄り添い、子育ての相談にも応じて、急な預かりにも対応しました。
- ・ 送迎時の聞き取りで保護者の気持ちに寄り添うことで、一時預かりの必要性を認識して貰えるよう努めました。
- ・ 「青葉区子育て情報発信デイ」(2022年9月)に参加し、事業の意義・役割・必要性の発信に努めました。

5. WEB 予約の利用者への周知、事業所内での使用方法の習熟に努めます。

- ・ WEB 予約システムの導入により、休日や夜間、早朝にも予約希望を入れられるようになり、一時預かりの使いやすさが向上しました。
- ・ WEB 予約システムについて、登録時や問い合わせがあった時にも丁寧に説明をし、システムのみで頼ることなく、予約希望に対して電話での対応も引き続き行いました。
- ・ WEB 予約システムの導入開始直後には、こちらが受入れを予定していない方が間違っただけで来られてしまう等の混乱も見られましたが、謝罪や丁寧な説明を重ね、スムーズに利用していただけるようになりました。
- ・ システムについての疑問には、すぐに市の担当者に問い合わせ、事務担当者、施設長で情報を共有しました。

《いるかくらぶ》

放課後、就労等により保護者がいない小学生が、安心して安全に過ごす事ができる居場所を提供します。

1. 子どもたちの安心安全を第一に考え、子どもたちが自ら考え安全を確保する力を育み、子どもたちが主体的に放課後の時間を豊かに創造できるよう支援します。
 - ・ 2022年度も感染症対策に配慮して活動しました。職員による環境整備の他、日常清掃を清掃業者にも依頼し、衛生環境の維持に努めました。子どもたちが行う毎日の当番活動においても、除菌方法を工夫して取り入れました。

- ・ 公園の外遊びで、活発に動く遊びをしているときは、地域の人に配慮することができていました。公園の安全な使い方については折に触れ話し合い、公共のマナーを学ぶことができました。
 - ・ 新生児については、慣れるまで職員が学校に迎えに行き、通学路や学校からいるかくらぶまでの道の危険箇所を確認して歩き、安全に歩くスキルを培いました。日常においても、危険を避けること、危険箇所を見つけることを少しずつ積み重ねて、大きなケガもなく安全に過ごすことができました。
- 2. 異年齢の集団の良さを生かして、遊びや活動を通して、自他共に尊重し、お互いに思いやり、育ち合える環境を作ります。**
- ・ 当番活動の単位である班を異年齢で構成することで、毎日の活動を通して、互いに学び合うことができました。春と秋に班のメンバー替えを行い、いろいろな人とより関わられるようにしました。
 - ・ ベーゴマやけん玉、こままわしなど、練習することで上達する遊びが定着しており、どの児童もお互いに刺激を受けていました。
 - ・ 生き物や植物が好きな児童が多く、公園で昆虫に詳しい児童が他児童に名前を教える等、自然な関わり合いがありました。
 - ・ 夏の遠足は、自然と親しむことのできる場所を選びました。書庫の図鑑で見つけた生き物について一緒に調べる等、更なる交流が生まれました。
 - ・ お楽しみ会では、劇や合奏等、当日まで練習を積み重ねる中で多くの成長がありました。
- 3. 子どもも保護者も、一人一人がほっとできる居場所になるよう配慮し、正しい情報提供に努めます。**
- ・ 季節の節目ごとに折り紙行事等を行い、子どもも大人も季節を感じられるようにしました。看板や入口の季節飾りは、保護者を和ませていました。おやつにも季節のものを多く取り入れました。
 - ・ 市が尾地域は習い事施設も多く、習い事等で学童滞在時間が少ない児童もいます。登室頻度の違いに関わらず、誰もが安心して過ごせるよう、職員一同が声かけや雰囲気作りに努めました。毎日来る児童には、新しい発見があるように、遊びを広げる支援を行いました。1年生から6年生まで年齢に応じた遊びも楽しめるよう、おもちゃ等を厳選し、特に関わり合いが生まれるものを選びました。
 - ・ お迎えの時間で、その日の出来事を具体的に伝えることを大切にしました。また、お便りやインターネット等でも情報発信を行いました。
- 4. 学校と保護者とくらぶとパレットで子どもたちを見守り、地域が協力して子どもたちを育めるようお互いに協力します。**
- ・ 学校とは、訪問やお便り等で連携することができました。特に、緊急時の対応や下校時の歩き方について、丁寧に情報共有を行いました。学校ごとに、学校からいるかくらぶまでの道のりを記した安全下校マップを作成し、保護者や学校と確認しました。
 - ・ いるかくらぶ児童は、公園愛護会の一員として日常的にゴミ拾いや花壇の手入れ等を行い、地域貢献を行うことができました。
 - ・ 今年度は、花壇作りのイベントで、子どもたちが近隣施設の窓に楽しい絵を描いて道行く人の目を楽しませることもできました。

- ・ 保護者とはお迎え時に情報共有をしています。パレットとは絵本ボランティアや積み木組立ボランティア、フードドライブ仕分けボランティア等、いるかくらぶ児童と他事業所とが関わる機会を持ちました。
5. **保護者会の協力と理解を得ながら、パレットと連携し、イベント等を工夫して、地域の理解を深めます。**
 - ・ 感染症対策を工夫して行事を開催しました。
 - ・ 春秋の公園清掃は、普段使っている公園をみんなできれいにする中で交流が生まれました。地域の方やパレット他事業所からの参加もあり、各回 40 名ほどで活動しました。秋には、授業の一環で訪れた高校生 40 名程といるかくらぶ児童と一緒に公園掃除を行いました。
 - ・ 新入生歓迎会では、感染症対策の視点から例年の合唱ではなくボディパーカッションをみんなで楽しく行いました。
 - ・ お楽しみ会は、地域の施設を借りて、数年ぶりに保護者も参加して会場開催することができました。演目や開催方法は、感染症対策を入念に行いました。
 - ・ やきいも大会では、おいしいお芋を参加者約 40 名が屋外で食べ、楽しい時間を過ごすことができました。
 6. **保護者が就労している間、安心して預けられる場所を目指し、社会の変化に柔軟に対応した運営内容を検討し取組みます。**
 - ・ 在宅勤務の保護者が増え、家庭により学童保育利用時間帯がより多様となりました。学校お迎え、習い事での中抜け等ニーズを捉え、柔軟に対応しました。
 - ・ 保護者会の会議は、オンライン形式と対面形式を組み合わせ、オンライン会議上で複数グループディスカッションを行うなど、工夫して話し合いました。
 - ・ 放課後児童健全育成事業の事業所が多くある昨今、放課後児童クラブとしての良さ、パレット学童保育室いるかくらぶとしての良さを発信することに努めました。インターネットによる情報発信では、アクセス解析をし、受け手にとって分かりやすい情報発信を研究しました。

② 子育て中の親子の交流事業

《びよびよ》

1. 近隣や地域の親子、家族、子育て支援者に「感染対策を行いながら安心して利用できる広場、気軽に遊びに行ける広場」があることを知らせます。広場のタイムリーな情報や様子、地域の情報を、通信やホームページ・ブログ、LINE 公式アカウント等でわかりやすく伝えていきます。
 - ・ 密を避け感染対策を行うことで、安心安全な広場環境を維持し、閉室することなく広場を運営することができました。
 - ・ 利用者におもちゃ拭きを協力してもらうことで、途中閉室せず 5 時間通しで開設することができました。
 - ・ 通信は 600 部、自治会用に 100 部毎月発行してきました。自治会掲示板に通信を掲示し、地域の方々にも親と子のつどいの広場びよびよのことを知ってもらうことができました。

- ・ ホームページやブログ、LINE 公式アカウントを使い、広場で遊ぶ親子の様子やイベント情報等、興味を持ってもらえるよう発信してきました。
2. **メンバーのチームワークを大切にし、自主研修や外部研修で得た情報を共有し、スタッフ、サポーターのスキルアップに繋げていきます。**
 - ・ 日々の振り返りを行い日誌に書きとめることで、広場の状況をスタッフ間で共有することができました。
 - ・ スタッフやサポーターは、育児不安や悩み、小さな困りごとを話し出せるような雰囲気をつくることで、一人ひとりに寄り添うよう努めてきました。
 - ・ 毎月行うスタッフ会議で課題や問題点を話し合うことで、よりよい広場になるための工夫や改善を行いました。
 - ・ 外部研修に参加し、情報共有をすることで、広場づくりに役立てました。
 - ・ 絵本の選びかた、読み聞かせ、手遊びの講座を外部講師の方に依頼し、改めて読み聞かせる大切さやリズム等、基本的なことを学びました。
 3. **利用者の声を活かし、子育て家族が親しみやすい居心地の良い広場づくりを目指します。**
 - ・ 利用者同士がおもちゃ拭きや片付けをする声かけもあり、子ども達も自然とお手伝いをする微笑ましい広場になりました。
 - ・ 新しく床を張替え、人感センサー付き洗面化粧台に替えたことで、利用者に気持ちよく使ってもらうことができました。
 - ・ 20周年行事には、利用者の協力を得ながら「20周年ロゴマーク」の作成や、「ぴよぴよ 20周年号」の電車の製作に参加してもらいました。ミュージシャンの方にも来ていただき、利用者と交流しながら歌のリクエストに応じていただきました。また、地域で縫い物ボランティア活動をされている方の小物販売や、地域の野菜やパンの販売、似顔絵やふれあい遊び等、3日間を通してイベントを楽しんでもらうことができました。
 - ・ 親子で楽しく参加できるイベントを企画し、交流の機会をつくりました（ハンドメイドの日、ふれあい遊び、ベビータイム、1歳児タイム、ぴよさんぼなど）この企画をきっかけに利用者同士がお互いに子どもに声をかけあい、見守り助け合うようすが見られました。
 - ・ 新しく会員になった方や見学の方でも温かく迎えられるよう、言葉がけや雰囲気づくりをしてきました。
 - ・ 利用者から寝ぐずりや夜泣きについての相談に、外部講師を招き、乳幼児睡眠講座を開催しました。少しでも悩みを解消できる手助けを行いました。
 4. **地域で子育て支援をしている方との交流や情報共有、地域活動への参加など繋がりを大切にしていきます。**
 - ・ 保健師が開催している赤ちゃん教室（小黒自治会館、あざみ野会館、黒須田自治会館、山内地区センター）で広場のイベントや利用案内をしました。保健師、主任児童委員、地域の子育て支援者の方々と繋がり、情報共有することができました。また、赤ちゃん教室での広報をきっかけに広場を利用する親子も増えました。今後も顔の見える繋がりを大切にしていきます。

- ・ 子育てネットワーク連絡会に参加し、荏田地域の子育て支援者と情報交換、交流の機会がありました。荏田地域にある資源をより広く利用者や地域の方々に知ってもらい、活用してもらえよう努めました。
 - ・ 青葉ひろば会議に出席し、広場の課題や情報を共有し連携してきました。
 - ・ 親子で利用できるイベントや地域情報、通信等を見やすく掲示し、利用者に伝えました。
 - ・ ぴよさんぽの企画で保育園のテラス開放に出かけ、地域交流の機会を持ちました。また、同保育園が開催した救命救急講座に参加させてもらいました。
5. **パレットの各事業所や地域、行政と連携を深め、子育て家族を応援します。**
- ・ 法人の事業所である一時預かりまーぶるの登録説明会を行いました。困った時に安心して預ける保育施設があることを利用者に伝えることができました。また、一時預かり保育室なないろの情報も利用者に伝えました。
 - ・ 青葉区役所のハローベビークラスで広報をすることができました。妊娠期でも地域にある広場を利用できることを伝えることで、出産後利用されるケースもありました。
 - ・ 子育てに不安を抱えている利用者の子育てパートナーと連携して見守ることができました。
 - ・ 青葉台東急スクエアでおこなった、ラフル主催の青葉区子育て情報発信デイ「みんなで作ろう！人に優しい町青葉区 地域×地域 共生」に参加し、区民の方に広報することができました。
 - ・ 青葉区「おかわりなしちゃんねる」に利用者と一緒に参加し、ぴよぴよの動画発信に協力しました。

《ぶーぶーしえすた》

1. **すべての育児中の親子が気軽に足を運べ、他の親子とつながりができ、地域とのつながりも持ち、安心して過ごせる居場所を目指します。**
- ・ 週5日常設で広場を開催し、いつでも誰でも温かく迎え入れ、安心して過ごせるように環境を整えました。
 - ・ 感染症予防対策としてお昼と終了時に館内消毒を行い、安全安心の広場環境を整え、広場を開催しました。
 - ・ リピーター利用者が広場の雰囲気づくりに参画し、初めて来た親子ともおしゃべりを通してアドバイスしあい、助け合う場になりました。
 - ・ イベントの日だけではなく、通常の広場での親子のようすをブログにて紹介し、利用を躊躇していた親子や、居場所を探していた親子に気兼ねなく利用できる広場である事を配信しました。
 - ・ Baby タイムやお話し会、英語で遊ぼう、ヨガでストレッチのイベントは、親子で一緒に楽しむイベントとして好評でした。
 - ・ 手作りの日は、利用者同士がおしゃべりしながら交流できるお楽しみのイベントとなりました。利用者同士で子どもを見守り合うこともできました。
 - ・ 広場玄関に通信やのぼりを置き、子育て親子でない地域の方にも存在を知ってもらうことができました。また、地域の掲示板に通信を貼って存在をアピールしました。
 - ・ イベントを行い、広場にに来てもらいやすい環境を作りました。（Baby タイム、お話し会、手作りの日、英語で遊ぼう、ストレッチヨガ等）

- ・ 育休の方向けのおしゃべり会は、保育・教育コンシェルジュを招いて開催しました。たくさんの親子が利用し、とても好評でした。次年度も開催予定です。
 - ・ 國學院大學絵本キャラバンの学生が定期的にイベントを開催し、親子と交流することができました。
2. **ワーカー・スタッフ・ボランティアのチームワークを大切に、外部研修などを積極的に活用しスキルアップしていきます。**
- ・ 毎月行うスタッフ会議で情報を共有し、問題提示をし、よりよい広場になるよう話し合い、丁寧な対応に努める体制を維持することができました。
 - ・ 日々の日誌記入により、気になる親子等の情報も共有しました。
 - ・ スタッフや地域ボランティアの見守りのもと、地域の親子が集い、交流しながらお互い支え合う居場所となれるよう努めました。
 - ・ スタッフや地域ボランティアは利用者が話しやすい雰囲気を作り、寄り添う姿勢を大切に、日常の悩みや育児不安を話せるように努めました。
 - ・ 相談内容は個人情報を保護し、外部にもらさないことを厳守しました。
 - ・ 気になる親子や配慮が必要な場合は、スタッフ会議で情報共有を行い、子育て支援資源について話し合いました。場合によっては地域の保健師や主任児童委員等に相談し、共に見守りました。
 - ・ 積極的に外部研修に参加できるようシフト調整し、より参加しやすい環境にしました。
3. **地域交流に継続して取り組み、地域活動に積極的に参加していきます。**
- ・ たまプラーザ地域ケアプラザや山内コミュニティハウスなどでの赤ちゃん教室で、地域の方々や保健師、主任児童委員との交流や情報の交換ができました。来年度も顔の見える関係づくりを大切にしていきます。(山内、たまプラーザ、あざみ野)
 - ・ たまプラーザ次世代タウンミーティング、保育子育てネットワーク作り等の会議に積極的に参加し、地域の情報交換をすることができました。
 - ・ ハロウィンイベントでは、地域の商店街の方々と協力して開催することができました。
 - ・ たまプラーザ商店街の夏祭りでは、結の会(手づくり手芸の会)、國學院大學絵本キャラバンの学生とコラボし出店しました。また、たくさんの元利用者の方と交流することができました。
 - ・ 美しが丘地域ケアプラザ祭り等に参加する予定でしたが中止となりました。
4. **他の親と子のつどいの広場事業所やパレットの各事業所など子育て支援ネットワークを活用、連携して子育て支援の充実に努めます。**
- ・ ネットワーク会議に参加することで、保育園やラフールのお話を聴くことができました。
 - ・ まーぶるの登録説明会を積極的に開催し、預かりの状況等の情報を利用者登録に結びました。また、次回の登録会を希望される方も多く、来年度も積極的に開催していきます。
 - ・ 青葉ひろば会議に出席し、それぞれの広場と情報共有しました。また、青葉ひろば会議研修では、産前産後の子育て支援資源について学びました。
 - ・ 一時預かりまーぶるやなないろの情報等を利用者へ伝えました。
 - ・ 地域子育て支援拠点ラフール、一時預かり事業所、つどいの広場等の通信やパンフレットを、広場の見やすいところに掲示し利用者に伝えました。

5. 広場での情報提供、毎月の通信の発行、ブログ、LINEなどで広場が身近にあり、気軽に来てもらえるよう情報を発信していきます。
- ・ 区内の赤ちゃん教室、栄養相談、歯科相談等の福祉保健センターからのお知らせを見やすい所に掲示し、また対象月齢の利用者親子には案内をしました。
 - ・ 保健師が開催している赤ちゃん教室や地域の子育て支援者が行っているひろばで、活動紹介やイベントの案内をしました。
 - ・ 自治会の掲示板に毎月通信を掲示してもらっており、子育て世代以外の方々にもしえすたを知ってもらうことができました。折り紙などを寄付してくださる地域の方もいました。
 - ・ ブログや通信（毎月発行）、公式ラインで広場の様子やイベント報告、イベント情報の今後の予定を広報しました。公式ラインは毎年登録者が増え続けています。
 - ・ 保育園や幼稚園情報を知らせるため、たまプラーザ地域の保育園情報等をわかりやすくファイルしたり、一時保育の保育園情報を掲示したりしました。

③ その他この法人の目的を達成するために必要な事業

《ラフル》

アウトリーチ、オンライン、SNSの活用など様々な新しい支援の手段を開拓し、方針実現に向けて取り組んでいきます。

1. 地域子育て支援拠点のもつ多様な機能や役割を区民や関係機関に知らせ、活用につなげていきます。
- ・ アウトリーチに加えてコロナ禍に導入したオンライン、SNSの活用により、来所以外の利用対象者との接点ができています。
 - ・ ラフル、ラフルサテライトから遠い地区や資源の少ない地区にラフルが出向く「出張ラフル」を7カ所開催しました。ケアプラザや支援者の協力を得て、掲示板や回覧板で広報することができた地区もあり、参加しなかった人にもラフルを目にする機会が作れました。出張先のひろばでは、7つの機能の紹介をして周知し子育てサポートシステムの入会説明会が実施できました。
 - ・ 定期的・臨時・個別に・出張先で、子育てサポートシステムの入会説明会を開催し会員を増やすことができました。参加者に、拠点の他の事業も説明して利用につなげました。
 - ・ 地域で活動する支援者に、拠点の7つの事業を養育者に知らせる役割を担ってもらうよう働きかけました。
 - ・ 継続してSNSでの発信にも力を入れました。紙媒体の広報の紙面にはラフルのHP、Instagram、FacebookのQRコードを入れました。
 - ・ 「ひろば内子育て講座」や「ひろばde紹介」は動画で配信し、ラフルホームページ内でのライブラリー化を行い、来所できない利用対象者にも届けるとともにいつでもオンデマンドで見られるよう新しい発信の手段を開拓しました。
 - ・ 青葉区子育て情報発信アプリを関係機関、支援者に広く伝え、ラフルが青葉区の子育て支援情報の収集と集約、発信を担っている事を周知することができました。多くの関係機関、支援者からの情報が届く仕組みをつくり、定着してきました。
 - ・ 区報お知らせ欄他外部紙媒体、ラジオ、テレビ、他団体のホームページにおいてラフルの役割を伝えることができました。

- ・ 青葉区民まつり、青葉台東急スクエアのアトリウムでの企画では、区民に向けて子育てを応援する機運を高めるための情報発信を行いました。区民まつりでは、「青葉区民クイズ」を作り、子育て支援の必要性を楽しく多くの人に伝えられるよう工夫しました。
 - ・ 「地域でつながる子育て」をテーマに講座を開催し、区民に「子育て応援団」になってほしいと伝えました。
 - ・ ハマハグ協賛店を増やす活動を通して拠点の周知を行なうとともに、子育てを応援する機運を高めました。
2. 将来親となる次世代からの包括的な子育て支援に取り組みます。
- ・ もえぎ野中学校、すすき野中学校の学生4名の職業体験を受け入れました。コロナ禍で出来ていなかった中学生との交流が復活しました。
 - ・ 中高大学生のボランティア、実習、ヒアリングの依頼を受け入れました。今の子育てを理解できるよう、ひろばで親子に接する機会を提供し、丁寧に子育て支援についての説明を行いました。
 - ・ 市ケ尾高校の全生徒に向けてラフルで夏休みのボランティアを受け入れることができることを周知依頼し、1名の生徒がサテライトでのボランティア体験を行いました。
 - ・ 市ケ尾小学校2学年4クラス的生活科の授業に、ラフルとつどいの広場を利用している親子8組と共に参加し、地区の主任児童委員の参加も得て「ふれあい授業」を開催することができました。子育て親子へのインタビュー、赤ちゃん人形の抱っこ体験、妊婦エプロンでの妊婦体験、月齢ごとの離乳食の展示を通して、自分が生まれた時の様子や家族との関わりについて、理解を深めるための一助を担う事ができました。
 - ・ 妊娠期向けの企画も継続し、断ることなく対応しました。妊娠期の家族が少し先行く先輩家族と交流し、子どもがいる生活をイメージできる機会を提供しました。
 - ・ 市ケ尾第三公園愛護会の一員として、いるかくらぶや市ケ尾高校のボランティアによる公園清掃に参加して、小学生と保護者、高校生と職員にラフルの活動を紹介しました。
3. パレットの他事業、他団体・施設支援者と連携し、子育て世帯や妊婦とその家族が身近な地域の子育て支援につながるようにネットワークを構築します。
- ・ 地区別ネットワーク連絡会、各種関係機関との連絡会での意見交換、出張先や拠点を訪れる子育てを応援している人との会話を通して、顔の見える関係を築きました。また、子育て支援の情報を拠点に、拠点の情報を子育て世帯に届けるネットワークを築きました。情報は、SNSや拠点で紹介、閲覧ができる環境を整えました。
 - ・ ひろばでの3～6歳児向け企画「やってみよう de ラフル」に、いるかくらぶの子ども達の参加を得ることができました。参加者に少し先に行く学童期の子どもの様子や地域の子育て支援についてふれる機会を作りました。
 - ・ 拠点の7つの機能が連動し親子の不安や悩みに寄り添いました。拠点の機能だけでは解決できない場合には、区、乳幼児一時預かり事業、一時保育、子育てタクシー等、拠点に集まった情報を精査して提供しました。
4. ラフルが把握する課題をパレット他事業と共有し、解決策を検討していきます。

- ・ パレットの各事業所が感じる課題を出し合い、コロナ禍が親子に与えた影響について考える講座を開催することができました。